

# 今を未来に

## 6年生学力・学習状況調査の結果と2～5年生のNRT検査の結果から

学力・学習状況調査（6年生）と、学力到達度検査（2年～5年生）の結果が出そろい、各学年でその結果を考察しました。以下にあるような結果から、今後の指導の工夫・改善と家庭学習状況についてお伝えします。子どもたちにも、この内容は各担任からわかりやすいように伝え、子どもたちの協力となかまの支え（学び合い）があって、学力が向上することを確かめ合いたいと考えています。また、指導の改善・工夫などが「・・・していきます。」と、これから取り組むように表現してあるところも多いのですが、すでにその工夫・改善に向け、取り組みを進めているものも多くあります。

学校全体としては、ここ数年の取り組みが重なり、また、子どもたちも自分の意見を出すこと、なかまと考え合うことが、自分やなかまの学力保障につながってきていることを実感しつつあると捉えています。保々中学校との連携の中で中学生になってからの伸びを追うと、小学校時代に学習に向かう基礎を大切にしていることが、実を結んできているのではないかと分析しています。

ただ、報道などで伝えられていますように、今年度から都道府県の平均点の公表が、整数でされるようになりました。それは、47都道府県の差が問題数にすると1問できるかできないかの範囲内にほとんどの都道府県が入っているため、平均点を小数まで出して公表しても、0.1単位の差を出すだけで、本来の目的（子どもたちの学力保障をするために授業改善・工夫を図る）が見失われる傾向がここ数年続いているという反省からと聞いています。私たちも分析結果を公表するにあたり、全国平均に対してどうであったかはお伝えするものの、その学年の「強み」「弱み」を的確につかみ、授業改善・工夫すべき点を明らかにすることを大切にしていきたいと確かめ合いました。そして、家庭学習に関わる場所は、お子様一人ひとりに自覚して欲しいと思うこと、家庭で気を付けて協力して欲しいと考えていることを書きました。2年生以上の全学年の結果を、学校だよりにもまとめてお伝えしているのは、学年による結果の違いを伝える為でなく、例えば6年生の学習状況の質問紙などから明らかになってきた子どもたちの様子は、下級生の子どもたちにも共通して言えることであるので、上級生の様子を参考にわが子の様子を保護者の皆様にも考えて欲しいと思っているからです。

### 【6年生学力・学習状況調査の結果考察より】

#### 1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語については、A問題・B問題ともに全国平均を正答率で若干下回る結果（問題数にすると1問程度）となりました。算数については、A問題・B問題ともにほぼ全国平均並みの結果となりました。

#### 2. 学力調査の「強み」と「弱み」にかかわって

（強み）国語A：手紙に書かれている内容や俳句の情景を捉えることができています。このことから、基本的な手紙の構成は理解できているということが言えます。

算数A：朝の学習で取り組んできたわり算をはじめ、基本的な計算問題の正答率が高く、こつこつと積み上げてきた結果としての力がついていると言えます。

国語B：目的や意図に応じて文章の構成を考えたり、適切な言葉づかいで書いたりすることができます。

算数B：示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述することができます。この式の中にある数や四則計算を意味から捉える力は、算数や数学の分野で、今後も非常に大切な力となります。

(弱み) 国語A：漢字の読み書きに課題が見られました。単語としてだけでなく、文や文章の前後から意味を捉えて、同音異義語の使い分けを含めた漢字の読み書きについての力をつけていく必要があります。また、文から必要な情報を見つけたり、意図を読み取ったりすることに課題が見られます。

算数A：面積と事柄の共通点を探したり、条件に合わせた図形を選んだりする問題において課題が見られました。

国語B：問題の意図を捉えることや資料をもとに自分の考えを書く問題に課題があり、考えを読み取ることや自分の考えをまとめていくことが苦手な子が多いと言えます。こういった問題の形式については無回答率も高く、苦手意識が強いとも言えます。

算数B：問題で解答として求められていることを的確に捉え、そのことに応じて平均を求める式を選択することに課題がありました。また、割合を求める際の基準量と比較量の関係を表している図を判断することに課題がありました。平均や割合は「数量関係」についての内容であり、この内容自体が苦手な子が多いことがわかりました。

(児童質問紙から見られる特徴)

学力調査(国語や算数)についての結果を分析する際、子どもたちの課題となっていることの原因は何なのかを探っていく必要があります。こうした子どもの背景に目を向けていくために、学校や家庭での生活について、いくつかの質問を受けます。それが児童質問紙です。その質問紙の回答状況を全国平均と比べる中で見られた特徴は以下のことです。

- 教科に対する意欲や将来役に立つという考えを持っている子どもの割合が他校の平均と比較すると高い。
- 宿題を家で行う割合は全国平均に迫っている。
- ▼予習や復習、休日の学習にける時間が短く、ゲームにける時間が長い子どもの割合が高い。
- ▼授業でのめあての提示や振り返り活動を経験してこなかったと感じている子どもの割合が高い。
- ▼話し合いやそれを通して自己決定をしていく経験が少ないと感じている子どもの割合が高い。
- ▼人前で話すことや作文で感想や説明をすることに苦手意識がある子どもの割合が高い。
- ▼自分によいところがあると感じられていない子どもの割合が高く失敗を恐れる傾向が強いとみられる。
- ▼読書をしていないと感じている子どもの割合が高い。
- ▼朝食を毎日とっていないかったり就寝時間にばらつきがあったりする子どもの割合が高い。

一概に全国平均と比較して、これが高いから良い、これが低いからダメということではありません。これから社会に出ていく子どもたちが、社会の状況(今は全国の小学生)を知っておくことも大切でしょうし、学校や家庭でもこのことを意識しながら「こうなっているのはなぜなのか」を考え、子どもに十分な力をつけていけるように今の取組を見直す必要があります。学校でも、この結果から見えてきたことを日々の授業や学校生活に活かしていきます。

### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

子どもが考えたくような課題を明確に授業のはじめに提示し、「わかりたい」と考えて授業に入り込めるよう授業を工夫します。また、子どもが自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりする学習活動を今まで以上に徹底していきます。そのために、書く作業を取り入れた学習活動や条件を付けて書いたりする学習活動を取り入れた授業展開を図り、子どもたちが意見や考えを出しやすい授業の流れを作り、授業の最後にはキーワードを使って授業の振り返りを文章でまとめる活動を進めていきます。

さらに、電子黒板やタブレットなどを積極的に活用していきます。特に、算数の図形の学習に関しては、空間の認識力を育てるために、図形の変化や違いが動きとして理解できるように活用していきます。

活用問題については、時間配分なども意識させながら、さまざまな教材を実態に合わせて使用し、理論的に説明する力・言葉にして書いて説明する力を身に着けることができるように取り組んでいきます。

#### 4. 家庭学習にかかわって（学校質問紙質問項目と関連して）

学校全体で取り組んでいる家庭学習振り返り週間などで分析してでてきた課題を子どもたちの指導に役立てていきます。特に、質問紙でも明らかになっているように予習や復習、休日の学習にかける時間が短く、ゲームにかける時間が長い子どもが多いことや、携帯電話・スマホへの依存度が高いことについても見直すように働きかけていきます。これについては学校の働きかけと同時に、家庭での働きかけがあるかないかということが非常に重要になってきます。

家庭学習の内容については、その日に出された宿題だけでなく、自分に「学力をつける」ということを意識した家庭学習とはどんな中身がよいかを、学校としても子どもといっしょに考え合いながら進めていきます。ご家庭でも、お子様がどんな内容にどうやって取り組んでいるのかを常に気にしていただきながら、時には一緒に取り組んだり、新たに問題を出したりするといった働きかけをしてください。そうした働きかけひとつで、お子様の学力の定着度も大きく変わってきます。

### 【5年生到達度検査NRTの結果考察より】

#### 1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語と算数のどちらも、正答率でほぼ全国平均と変わらない結果となりました。

#### 2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

（強み）国語：「目的に応じて構成を考えて書く」や「文の中心やつながりに注意し書く」という「書くこと」に関する力が強みとしてあることがわかりました。

算数：「数と計算」や「数量関係を考えた立式」について十分に力がついていると言える子どもが多いことがわかりました。特に数量関係については、これからの学習でも重要になってくる分野であるだけに、大きな強みと言えます。

（弱み）国語：「目的に応じて話すこと」「説明的・文学的な文章を読むこと」「ことわざ」については正答率が低いという結果となりました。また、正答率が低いというだけではなく無答率が高くなっていることも気になります。

算数：「いろいろな図形」「平行・垂直」「面積」「角」といった、図形問題を中心に正答率が低い結果となりました。また「がい数と四捨五入」については、基本的な知識としての理解に課題が残っているということがわかります。

#### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語では、無答率が多いということから苦手意識がある子どもが多いことが予想されます。個人で感想やまとめを書くだけではなく、全員が書いたことを友だちと伝え合う活動を積極的に授業に取り入れ、主体的に学ぶ姿を大切にしていくことで、まずは自信をつけさせたいと思います。また、段落の関係を捉えながら読んだり、接続詞に注目して読んだりすることについては、説明文や物語文それぞれの特性を踏まえた上で、授業の課題にも意識的に設定し、ポイントとなる言葉に着目して読むことのできる力をつけていきます。

算数では、図形問題は、面積の公式を覚えるだけで終わっている子どもがいなか確認しながら進めていきます。また「なぜその公式になるのか」という、図形の特性や公式の意味を大切にした学習を進めます。がい数と四捨五入については、筆算や、文章問題で度々登場します。その都度、復習しながら進めていきます。

#### 4. 家庭学習にかかわって

国語については、宿題となっている音読の仕方を見直し、丁寧に取り組んでいく必要があります。「繰り返し読む→言葉（新しい語彙、表現の仕方）を覚える→読み書きに活かせる」という知識を習得していく過程を意識してみると、音読をすることでどんな力がつくかよくわかります。「なんとなく」で済ませるのではなく、このことを理解して読むと同じ時間を音読に使ったとしても、何倍も知識の習得は進みます。

算数については、計算ドリルなどを使い、繰り返し練習していくことで定着を図ることが大切であると考えています。量は少しずつであっても、広く既習の内容に触れ続けていくことでいつまでも残る知識や理解としていきたいところです。

こうした視点から保護者の皆様も捉え、家庭でお子様に対する声かけを継続して行っていくことでより学力は定着していきます。

### 【4年生到達度検査NRTの結果考察より】

#### 1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

算数はほぼ全国平均並みですが、国語に若干の課題が残る結果となりました。

#### 2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：「漢字の構成、読み・書き」など基本的な言語力については、多くの子が十分に身につけていると言えます。

算数：「分数の計算」、「二等辺三角形や正三角形の知識・理解」、「図形」、「数量関係」など多数の領域で全国平均を上回っていることから、基本的な学習内容は理解し、バランスよく定着していると言えます。

(弱み) 国語：「目的に応じて適切に話すこと」「話の中心に気を付けて聞くこと」という「話す・聞く」ことの領域で、全国平均よりも下回る結果となりました。

「文の中心やつながりに注意し書く」という「書く」ことの領域で全国平均よりも下回る結果となりました。

算数：「長さ・重さの単位とはかり方」の領域において、全国平均を下回る結果となりました。

#### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

普段の様子から、課題に対して前向きに取り組む姿が見られます。しかし、わからない問題の所で立ち止まってしまったり、時間をかけすぎたりする様子もあり、時間配分に課題があります。時間内に課題をやり遂げるなど、時間を意識した学習活動に取り組んでいきます。

国語では、発表に消極的な姿があります。子どもたち同士で意見を出し合い、課題を解決していくことが「話す・聞く」力をつけることにつながります。意欲的に話し合い活動に取り組むことができるよう、子どもたちが解決したい、話し合いたいと思える課題づくりについて考えていきます。また「書く」力をつけるために、条件を提示したまとめを書かせたり、日々の出来事を綴る日記の活動に取り組んだりしていきます。

算数では、分度器を使って角度を測る問題で読み間違える姿があります。これは、角度の量感覚が不十分だと分析しています。90度、180度、270度、360度という基本的な角の大きさがどれぐらいなのかを理解させ、測る角度はだいたいどれぐらいかを予想させながら角度を測っていきます。これは、長さや重さを測るときも同様に考えています。

#### 4. 家庭学習にかかわって

家庭学習の習慣はついてきていますが、土日に学習する子はまだまだ少ないです。学校からは自主学習でどんなことをすればいいか、また友だちがどんな学習をしているかを紹介していきます。参考にし

ながら土日に自主学習に取り組むことが重要です。また、テレビや音楽を聞きながらの、いわゆる「ながら学習」も気になります。集中して取り組むことが学習内容の定着につながります。学習する前に学習する環境を整える必要があります。

子どもたちの普段の会話を聞いていると、ゲームをしている時間が非常に長いことが伝わってきます。ゲームに時間を費やし、学習がおろそかになってしまったり、睡眠時間が短くなってしまったりしては学習内容の定着は見込めません。ゲームをする時間やルールを決め、それを守ることをめざしていかなければなりません。

## 【3年生到達度検査NRTの結果考察より】

### 1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語、算数ともほぼ全国平均並みの結果となりました。

### 2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：「読む能力」について十分に力がついている子が多いという結果になりました。その中でも「大事な言葉の読み取り」には特に強みがあります。得点分布から、全体として見た場合に得点の高いところにまとまって分布しているということがわかります。このことから、全体として学力の底上げがされていると言えます。

算数：「たし算とひき算の関係」と「かけ算の式」といった数量関係についての理解度が高いと言えます。数量感覚を豊かにして具体的なイメージとともに考える力は、今後重要になってくるものです。

(弱み) 国語：漢字の「赤」と「耳」を漢字で書く問題に苦手がありました。片仮名の「ピューピュー」の問題では、正答率がかなり低いという結果となりました。カタカナの定着はもちろん、長音、撥音、促音、拗音といった表記にも苦手があると言えます。

算数：「かさ」と「長さ」の領域に課題があります。特に「かさの単位の換算」に大きな課題が見られたことから、量と測定に関する内容で、量に関する具体的なイメージを持って区別しながら捉えることができていない傾向があると言えます。

「三角形を描く」「四角形を描く」の問題にも課題があります。図形の特徴に目をつけて、理解を持った上で図形を描くことができていない子が多いということがわかってきました。

### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

授業の中で、新出漢字の演習だけでなく、既習の漢字を意識的に扱って何度も定着を図っていく必要があります。加えて、意味による漢字の使い分けの力をつけるためにも、漢字ノートの文づくりなどで、文章を書く中で漢字を使うことを取り入れていきます。その際に「主語や述語を入れる」「字数制限をする」「カタカナの言葉を入れる」などの条件を入れることで学習を発展させます。

たし算、ひき算、かけ算の演習を朝の基礎学力定着タイムで引き続き行い、2学期の【かけ算の筆算】、【大きい数のわり算】の土台となるようにしていきます。【円と球】の単元に入る前には、三角形・四角形の描き方や直角三角形についての復習を行います。小数や分数の学習の際にかさや長さを扱うとき、具体的なイメージとともに単位換算に触れるようにしていきます。

#### 4. 家庭学習にかかわって

今回の結果を活かして、個々の課題に応じて、子どもや保護者の方と相談しながら個別の学習を入れていきたいと考えています。基本的な漢字の読み書きや計算はもちろん、その時々々の3年生の学習内容につながる内容を意識しながら、復習としてだけではなく、先取りの学習にもなるように考えていきます。また内容以外にも、基本的な学習習慣の定着など、家庭学習振り返り週間だけではなく普段からお子様の学習の様子を気にかけていただくことも継続して取り組んでいってほしいことと考えています。

### 【2年生到達度検査NRTの結果考察より】

#### 1. 国語・算数の全国平均との比較にかかわって

国語と算数ともに、分野によってはそれぞれ課題が見られる結果となりました。

#### 2. NRT結果の「強み」と「弱み」にかかわって

(強み) 国語：「片仮名の書きと漢字の読み」については力がついていると言えます。「言葉の意味やまとまりを知る」ことはおおむねできています。このことから、基本となる言葉については定着が進んでいると言えます。

算数：「たし算とひき算」といった基本的な計算には強みがあります。国語と同様に、学習のもととなるこうした基礎的な部分の力はついている子が多いと言えます。

(弱み) 国語：「文学的な文章を読むこと」には大きな課題があります。キーワードとなる言葉に注目しながら内容を読み取り、自分の感じ方とつなげあわせながら話の筋を捉えることが苦手であると言えます。

「伝わるように話すこと」、「説明的な文章を読むこと」にも課題があります。どちらも「話を順序立てて組み立てる」ということに共通点があります。

算数：「たし算やひき算の立式」に大きな課題があります。式を立てる際、問題の意味を捉えて数や四則計算を扱い、意味を持った式とすることについて丁寧に取り組んでいく必要があります。

「数の意味や表し方」と「ものの形」に課題があります。数の概念を捉えなおすことや、それぞれの図形を特徴づけていく中で、区別をしながらものの形を理解することが必要になってきます。

#### 3. 指導の工夫・改善にかかわって

国語は、「文学的な文章を読むこと」に課題があります。教科書等の何度も音読を繰り返し、授業で読み進めた文章については読み取ることができますが、初めて読む文章への読み取りに苦手さがあります。たくさん文章に触れる機会をとって、文章について自分の考えを持つことができるように学習を進めていきます。

算数は、「たし算やひき算の立式」に大きな課題があります。読むことへの抵抗感から、文章題への苦手意識も見られます。これに対しては簡単な問題から、式を立てるために必要な数量を抜き出す練習をしていきます。工夫して計算をすることができるようにするため、子どもたちが考える場面を作り、なぜその答えになったのかを説明できるようにしていきます。数の意味や表し方の学習では、数のカードを使い、実際に自分たちで操作して10のまとまりを作っていくことで、位取りの基礎を思い出していきます。立体の学習では、実際にいろいろな形を手にして見たり、面の数を数えたりしながら特徴をつかむことができるようにしていきます。

#### 4. 家庭学習にかかわって

家庭学習の定着はできています。1学期の家庭学習振り返りの結果では、「机やテーブルの上などが整理できていない。」という結果が見られました。テレビがついていたり音楽が流れていたりする時も集中して学習に取り組むことができないので、低学年のうちから学習環境を整えてから学習する習慣を身につけておくといいと思います。

自分から環境を整えて宿題に取り掛かることができるよう、家庭での協力を引き続きお願いします。

#### 【子どもたちの様子から】

#### 運動会の練習が始まりました。

早い学年は、今週の月曜日から50m走のタイムを計ることから練習が始まっています。夏休み明けで、体をあまり動かしてこなかった子にとっては、結構しんどい思いをした1週間になったと思います。家でも、「疲れた。」と言いながら帰っているのではないですか。土日をうまく休息にあて、運動会の練習で最も大切な来週1週間、自分で満足がいく練習ができるようにしてほしいと思っています。



#### 5年生 稲刈りがありました。

5日（火）、運動会の練習の間に、5年生は稲刈り体験を行いました。「保々の自然に親しむ会」の方々から、稲刈りのコツを指導していただき、お借りしていた5分の1程度を、自分たちの手で刈ることができました。稲刈りは、鋸鎌を使って行うのですが、保々の自然に親しむ会の山川さんから「稲の株を



切る時に、自分の方へひく。絶対に外向きに鎌を使ってはダメです。」と、子どもたちがけがをしないように、実演していただきながら教わりました。また、刈った株を7束～8束ぐらいつ藁でくくると教えてもらいました。「わかりましたか?」「はい!」と返事はいいのですが、藁でくくると本当にわかったのかなあと、私は心配でしたが、たわわに実ったお米を早く刈りたいと思っていた子どもたちは、合図とともに一斉に田に入り、稲刈りを始めました。サクサクッと刈りとってもいく子もいれば、「なかなか刈れない。」と言いながら刈りとっている子もいました。昔の脱穀機（千歯こき、足踏み千歯こき）でお米を脱穀するために、藁でしっかり束ねなければなりません。大きな軍手をしている子どもたちにはこの作業がとても難しいようでした。私も子どもたちと一緒に稲刈りをして、藁の束の方をくるっと回す方法を見せながら作業を進めましたが、後半はひたすら束をくくる仕事を手伝いました。そして、子どもたち全員が稲刈り体験をしたのを確認して、現代の機械「コンバイン」に活躍してもらいました。あつと言う間に田に残っていた稲を刈り終わるのを見て「すごい!」「はやい!」と口々に言いながら、その様子を見させてもらいました。そして、コンバインからお米をトラックに積みかえる様子も見せてもらいました。

【運動会の練習始まる】



1・2年生「キッズパイレーツ」  
一人・二人のダンス、隊形移動もバッチリ。カリブの海賊の曲に合わせて、ニコニコ顔の低学年。



3・4年生「タッター度の花笠ダンス」  
基本の動きを覚えます。左右の方向や跳びはねる幅がそろると、かっこいいよ。これからだね。



5・6年生「組立体操 3点倒立」  
練習は一人技から始まりました。左側の6年生は昨年の経験があり、足の上がり具合が違います。



5・6年生「組立体操 6人ピラミッド」  
掛け声とともに組み立てます。全員の顔が真正面を向いていると、決めポーズ成功。

【5年生 稲刈り体験】



山川さんから、鎌の使い方を教わりました。  
「絶対に鎌を外向きに押したらだめだよ。」



山川さんから藁3～4本でくるって言われたけど、難しいなあ。すぐにほどけてしまう。



足踏み式の脱穀機です。ここにあるような歯がコンバインの中にあっただのに気づきましたか？



とうみも使わせていただきました。風の力を利用して、籾に混ざっている葉や藁くずを分別します。この仕組みもコンバインには入っています。